



馬 耳 東 風

キンモクセイが香る10月中旬の日曜日の夕暮れに都内某所でこの原稿を書いている。

このキンモクセイ、春の沈丁花、夏のクチナシとならべられて「三大香木」と称されるらしい。

秋だからなのか、この臭いに触れるとなんか懐かしい、そして切ない気持ちになる。でも大好きな香りである。

そして師走まであと2カ月あまり、いつものように今年もここまでがあっという間であることに驚きつつ、暮れの忘年会、恒例行事の段取りを思案している。

さて、スケジュール帳を見ると来週から海外出張が立て込んでいることに気づいた。

まずは10月23～25日 中国無錫で開催される第三回アジア小動物専科医師大会 (The 3rd Asian Small Animal Specialist Veterinary Conference)。

3日間で中国のみならず、世界各国から2,000名の獣医師が参加する一大イベントである。

筆者は23日夕方に国際動物病院運営円卓会議と称されたセッションでパネラーとして中国、米国、韓国の獣医師たちとのディスカッションへの参加を依頼されている。

セッションのテーマは、「動物病院のイメージ作り(ブランディング)について、先進国に語ってもらい、私たち中国は先進国とどのくらい離れているのか」というもの。

自国のありようを世界から俯瞰し、先達の意見から進むべき道を学び、定めようとするテーマ設定にとっても感銘を受け、中国の同胞のこの姿勢こそ、過去の成功体験からなかなか脱することのできないわが国にもっとも欠けている部分ではないかと感じた。

動物医療業界の経済的な急成長と臨床現場とのギャッ

プをどう埋めたらよいか悩む彼らの必死さと、確実にこの先を成功に導くという意思と戦略をひしひしと感じ、心してディスカッションに参加しようと思う。

そして10月27～29日、第11回FASAVA (Federation of Asian Small Animal Veterinary Associations) の年次大会がインドのムンバイで開催される。

<https://fasava2023mumbai.com>

本大会に筆者は2013年から東京都獣医師会の担当として毎年参加してきた。

実は当該大会、先般のコロナ渦で2019年にホテルニューオータニで開催されたFASAVA-TOKYO 2019以来、4年ぶりの開催となる。今回は東京都獣医師会の現職の会長と筆者の後継の担当理事とともに参加する。アジアの仲間たちと久しぶりに再会することはとても楽しみであるが、その一方でこの4年間で各国にどれだけの進歩・変化があるのか、課題はどこにあるのか、わが国の立ち位置はどのあたりにあり、未来に向けての戦略をどうとるべきかをぜひ確認したいと考えている。

ペットの飼育頭数の激減等、いささか手詰まり感があるわが国の小動物獣医療だが、実はわれわれが今まで培ってきた技術、サービスそしてそれを運用するシステムは現在アジア各国から大いに期待されている現実がある。

そこにあぐらをかくのではなく、提供できるものは提供し、ともに成長するというスタンスがとれないものか。

個人的にはアジアにおけるわが国の現在のポジションの賞味期限は5年、いや3年ぐらいではないかと感じている。

まさに百聞は一見にしかず、seeing is believingで今回のFASAVA大会に参加し、小欄においてアジアから俯瞰したわれわれの業界の現実を報告できるようにしたいと思う。(も)